

自ら考え行動する子どもを育むための授業づくりの要件 —小学校の総合的な学習の時間をめぐる教師の支援を手がかりに—

小林 寿英 高度教職開発コース

キーワード：主体的な学び, 総合的な学習の時間, 教師の支援, 子ども観, 教育観

1. 問題の所在と研究目的

本校の研究テーマは「自ら考え行動する子どもを育む学びの創造」である。これは児童の学習姿勢が「指示待ち・受け身」であるという職員共通の課題意識から設定されたものであるが、このことは逆に教師側が児童を指示待ちの学習者にしてしまっているとも考えられる。

子どもたちが世に出る頃の社会では、AI を搭載したロボットに現在の人間の仕事の約半数の仕事が取って代わると言われている。自ら考え、行動する力はこのような時代に対応していくためにも今後ますます必要となってくる資質・能力であろう。

また筆者はこれまで子どもたちが自分で考え行動する時、一人一人が実に個性的な発想を持ち込み、意欲的に取り組む姿を見せることに驚かされ、その可能性を感じている。

そこで本研究は、自ら考え行動する子どもを育むための授業づくりの要件を明らかにすることを目的とした。また筆者は本校での総合的な学習の時間（以下「総合」）の係主任であり、本研究の目的に迫るアプローチとして「総合」の授業を対象とすることが有効だと考えたため、「総合」をめぐる教師の支援を手がかりとすることとした。

2. 研究方法

(1) 文献研究

①子どもの主体的な学び, ②「総合」, ③教員間の協働・組織体制, ④子ども観・教育観に関する文献

(2) 調査研究

「総合」の授業参観を中心としたフィールドワーク 7 校

※授業づくりの要件を抽出するために参考にした実践事例は 以下の 5 校の「総合」の授業である。

南木曾町立南木曾小学校（4 年）, 長和町立和田小学校（6 年）, 伊那市立伊那小学校（全学年）, 上越教育大学附属小学校（全学年）, 横浜市立大岡小学校（全学年）

※以下の 2 校は 教育課程全般にわたる教育活動を対象とした。

富山市立堀川小学校, 奈良女子大学附属小学校

(3) 勤務校での実践研究

- ①子どもの学びを語り合う教員文化の再生
 - ・「総合」の見通しと活動づくり (勤務校 2017 年・2018 年度前期)
 - ・各学年の生活科, 「総合」の公開授業・協議会 (勤務校 2017 年度の試み)
- ②校内研修の実践
 - ・自ら考え行動する子どもに向けたワークショップ (勤務校 2017 年度の試み)
 - ・校内研修のファシリテーター (勤務校 2018 年度の試み)
 - ・6 学年 3 学級の「総合」のサポート (勤務校 2018 年度の試み)

3. 研究内容

3.1 子どもの学びを語り合う教員文化の再生

- (1)各学年の「総合」の見通しと活動づくり (勤務校 2017 年・2018 年度前期)
- (2)各学年の公開授業の実施とグループ研究会 (勤務校 2017 年度の試み)
 - ①1 学年「あきさがし」②2 学年「砂遊び」③3 学年「りんご学習で学んだこと」
 - ④4 学年「拾ヶ堰で学びたいこと」⑤5 学年「循環型農業」⑥6 学年「三郷の民話」
- (3)全校研修でのワークショップ (勤務校 2017 年度の試み)
- (4)全校研修でのファシリテーターを担当して (勤務校 2018 年度の試み)
- (5)6 学年との協働 (勤務校 2018 年度の試み)

6 学年 3 学級の担任と「総合」の授業後に子どもの姿について情報交換をした。担任が抽出児童とした子どもについて継続観察し、授業後に対話する形を定番化した。それぞれの抽出児のみとり方の違いを経て、子どもがどう学んでいるのか、自ら考える姿とはどのような具体的な場面で指摘できるのかについて対話をしながら少しずつ子ども観の共有が図られた。

3.2 自ら考え行動する子どもを育む授業づくりの要件の抽出

(1)「子どもは本来、自ら考え行動する力をもっている」という子ども観

「あきさがし」では、グループ構成について自ら考え行動する姿が見られた。自分の願いが高まると自ら考え行動する子どもの姿があった。「砂遊び」では、「水を使いたい」・「友だちと繋げたい」等、子どもたちがいろいろな遊び方を思いついて、クラス全体に提案する姿が見られた。「拾ヶ堰で学びたいこと」では、休みの日に自分たちで計画して博物館に行ってきたり、等々力孫一郎の肖像画を部屋に飾ったり、次の学年に進級しても学び続けたりと、授業者の予想以上に子どもたちは自ら考え、活動に没頭して行動する姿を見せていた。3.1(5)では、K 児が K 児自身の立ち位置を園児と同じ目線の高さにする姿を見ることができた。B 教諭の学級では、子どもたちが話し合いの場面で、自分たちで輪を作り、さらに大事な話になると輪を崩し、友達との距離を近づけて話し合いに没頭していく姿が見られた。

これらの子どもたちの姿に共通するのは、教師の意図的な指導やねらいに即した姿では

なく、授業を担当した教師の予想にはなかった姿であった。グループ研究会を通して、筆者らは子どもの見方・捉え方を改める必要性を実感したのである。子どもは本来、自ら考え行動する力をもっているという子ども観に立つことの重要性を理解した。

各学年の公開授業で教師は、目的意識や相手意識の確認や、子どもの意見の交通整理、板書、問いかけによって子どもが自ら考え行動するための支援を行っていた。6 学年の B 教諭は、子どもたちが自ら輪を作り、話し合いを進める姿を見て、子どもを信じ、見守っていた。B 教諭は Y 児の今までに見ることのない姿を目の当たりにしたことで、自己のありようを振り返り、学習指導の考え方を更新していった。B 教諭が「教える人・与える人」から「子どもが自ら考え行動することを支える人」へと、その構えを大きく変えたことが、子どもの自ら考え行動する姿を発現させたのではないだろうか。そうした B 教諭自身の立ち位置の変化によって、子どもの自ら考え行動する姿を B 教諭自身で見ることができるようになる。そこで、子ども観と連動して「教師の学習指導」も抽出すべき要件として取り出すことにした。

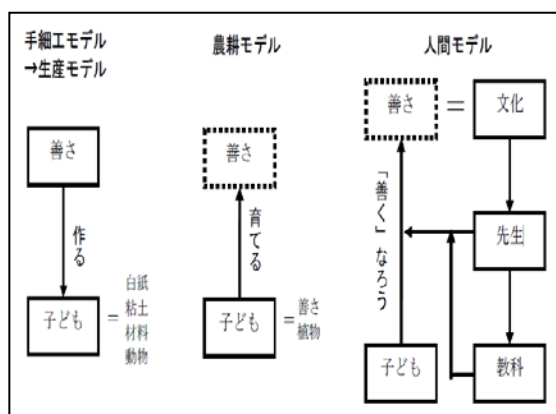


図 1 先生の子どもへの働きかけのモデル

この「子ども観」や「教育観」が最も重要な要件となる。村井(1978)は「子ども観」・「教育観」について 4 つのモデルを提示している (図 1)。

(2) その他の要件

自ら考え行動する子どもを育むための授業作りの要件として、その他にも実践を通して抽出したものがある。紙面の都合で詳細は割愛するが (報告書参照)、「教師の教材研究 (素材研究+学習材研究)」、「めあてと見通しの共有」、「ふり返りの場」、「環境設定」である。なお、環境設定に関しては以下の 6 項目を必要条件と考え、教師の支援がどうあるべきかを指摘した。(図 2)

- ①好奇心を刺激し、学びを深める学習空間
- ②地域の具体的な「もの・こと・ひと」に出会う機会
- ③その子にとっての意味ある体験 (必要感)
- ④その子なりの学び方や学ぶ場所等が自己選択できる
雰囲気
- ⑤一人一人が対象と向き合うために必要な十分に柔軟な時間の確保
- ⑥個人の追究を相互理解・評価し合うための集団づくり

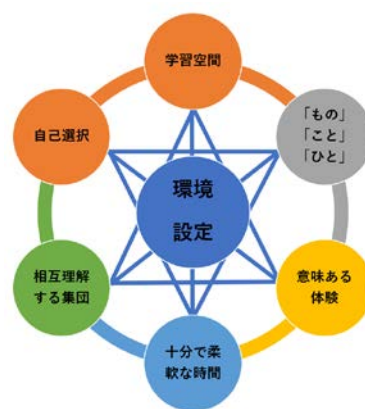


図 2 環境設定の要件

4. 研究の成果と課題

(1) 本研究の成果

本研究は、自ら考え行動する子どもを育むための授業作りの要件を明らかにすることを目的とし、6項目を抽出した。これらは図3に示すように、いずれも関連し合う要件であり、その中核に子ども観が位置付くと考察した。この6要件は「総合」における教師の支援を手がかりとしたが、自ら考え行動する子どもを育む授業づくりにおいて、どの教科でも活用できる要件である。

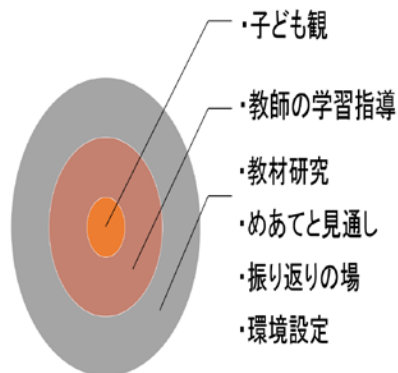


図3 自ら考え行動する子どもを育む授業づくり6つの要件の階層

今回の実践研究を通して、「総合」の年間指導計画を構想し本校版のカリキュラムを整備することより

も、「総合」の授業を通して子どもの自ら考え行動する姿を同僚と語り合う中で、少しずつ「子ども観」や「教育観」を共有しながら取り組んでいくことが重要であることを実感できた。その時、村井のいう「子ども観」・「教育観」の4つのモデルは、「子ども観」・「教育観」について自分を省察したり、同僚と語り合ったりする際の一つの指標となるだろう。

(2) 本研究の課題

教員の働き方改革が叫ばれる中、職員を全員集めての全校研修をコンスタントに位置づけ、必要な研修を実施すること自体が難しい状況にあった。そんな中、「総合」における子どもの学びを語り合うことから、自ら考え行動する子どもを育む授業の推進を目指してきたが、本研究はもっと同僚を巻き込み協働で取り組む必要があった。そして「子ども観」や「総合」のカリキュラム・マネジメントに関して、職員同士の議論の場の共有が本校の実践の質向上に求められる。

文 献

- 伊那市立伊那小学校, 三枝孝弘 (1982). 「学ぶ力を育てる」. 明治図書
 上田薫(1972). 「個を育てる力」. 明治図書
 上田薫(1989). 「教師も親もまずわが足もとを見よ」. 金子書房
 木下竹次(1923). 「学習原論」. 目黒書店
 木下竹次(1926). 「学習各論(上)」. 目黒書店
 上越教育大附属小学校(2018). 「今を生き、明日をつくる子どもが育つ学校」
 妹尾昌俊(2017). 「思いのない学校, 思いだけの学校, 思いを実現する学校」 学事出版
 田村学(2015). 「授業を磨く」. 東洋館出版社
 奈須正裕 (2014). 「教師として生きるということ」. ぎょうせい
 平野朝久(1995). 「子どもが求め、追究する総合学習」. 学芸図書
 村井実(1978). 「新・教育学のすすめ」. 小学館創造選書
 文部科学省(2010). 「今, 求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」. 文部科学省
 文部科学省(2018). 「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」. 東洋館出版社
 山口周(2018). 「武器になる哲学」. KADOKAWA
 横浜市立大岡小学校(2018). 「公開授業研究会学習指導案」